

佐久島産「サツマイモ」、初の本格収穫・出荷！ 19日試験圃場で収穫、島内で2トンを集出荷 芋焼酎製造へ

佐久島の島民団体「島を美しくつくる会」とJA西三河は、9月19日、佐久島ラインガルテンの試験栽培圃場で、サツマイモの収穫を行います。

これは島民団体・JA・西尾市が平成29年度よりともに取り組み、佐久島産サツマイモの名産化に向けた「さくまいもプロジェクト」の一環です。当日は島民団体やJA・市の担当者のほか、地域振興を学ぶ愛知淑徳大学の学生、現地のNPO法人なども交えて、ともに収穫作業に取り組みます。

この日収穫したサツマイモは、島民有志が栽培したサツマイモとともに、西尾市内でみりん・料理酒の製造を行う相生ユニビオ㈱によって芋焼酎に加工されます。佐久島産サツマイモの芋焼酎は、平成31年3月頃にJAから販売を開始する予定です。

■佐久島産サツマイモ収穫 詳細■

【日時】9月19日（水） 午前8時～12時

【場所】佐久島ラインガルテン

【参加者】

島を美しくつくる会
愛知淑徳大学 コミュニティコラボレーションセンター
NPO法人ONE STEP
JA・西尾市の担当者 など（予定）

※ 参加者は午前7時40分または午前9時40分に一色町渡船場を出発する渡船に乗船し、午後0時30分に佐久島西港を出発する渡船で戻る予定です。



佐久島ラインガルテンでの収穫（平成29年11月）
今年はさらに畑の面積を拡大し、
多くのサツマイモを収穫の予定

■「さくまいもプロジェクト」・今後の予定

平成30年度は、島民団体による佐久島ラインガルテンでの試験栽培（約10畝）のほか、島民7人が自らの畑でサツマイモを栽培しており、総計約13畝の畑で約2トンのサツマイモを収穫の予定。9月25日・26日にJA佐久島店でサツマイモの集荷作業が行われ、9月27日には佐久島から一色町渡船場を経て相生ユニビオ㈱へ搬入されます。

佐久島産サツマイモを使った芋焼酎のネーミングやラベルの作成・瓶の選定などの商品企画は、島を訪れる若い世代の観光客の心をつかみ、口コミやSNSでの拡散が見込めるよう、佐久島の若者と愛知淑徳大学の学生が連携して行います。

また、島民や西尾市観光協会によるサツマイモ加工品の企画も進んでいます。今後はさらに栽培規模を拡大するとともに、芋焼酎などとともに、観光客が佐久島で購入し持ち帰ることのできる商品の開発と販売場所の検討を進めていきます。

佐久島の新名産品めざす 「さくまいもプロジェクト」

■「島づくりのNEXTステージ」プロジェクト

島を美しくつくる会は平成28年度より、佐久島への移住・定住・交流促進事業「島おこしのNEXTステージ」をスタートさせました。同プロジェクトは下記の3つの柱からなっています。

- ①農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み
- ②古民家を利用した定住促進PRと島の自然体験ツアー
- ③島民交流によるコミュニティの活性化と島の新たな「目玉」事業づくり

プロジェクトには、西尾市・周辺市町の企業や市民団体・NPOなどが数多く参加。JA西三河は農業分野である「農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み」に参画し、その一環として下記の「さくまいもプロジェクト」などの新たな農業名産品育成と、その加工品づくりを行うこととしています。

■さくまいもプロジェクト

——佐久島の新名産品を作れるか

島を美しくつくる会とJA西三河・西尾市は、「さくまいもプロジェクト」と題して、佐久島でのサツマイモの生産・加工品作りと観光客向けの販売に向けて平成29年度より活動しています。

観光振興を島民収入につなげ、島の経済活性化とともに、魅力PRを通じた定住拡大を行うことが狙い。これにむけてJAは、サツマイモの栽培計画作りと苗の調達、島民への栽培の普及と栽培指導、集出荷と販売ルートの構築などを担うこととなりました。

（平成29年度）

取組1年目は、島の地質や気候に適するサツマイモの品種を選定するため、佐久島ラインガルテン北側の畑約4.5㌥で栽培試験を実施。11月に500kgのサツマイモを収穫。

また加工品作りに向けて9月、島民・JA・西尾市と相生ユニビオ(株)、愛知淑徳大学の学生らをまじえた検討会を開催。平成30年5月には、初の試作品である佐久島産サツマイモを利用した芋焼酎の試飲会を開きました。

（平成30年度）

前年の試験結果を基に、品種を「紅はるか」に統一。佐久島ラインガルテンでの栽培面積を約10㌥まで拡大したほか、島民7人が自らの畑でサツマイモを栽培しました。総面積約13㌥で、約2㌥のサツマイモを収穫の見込みです。

（今後については前ページ参照）



試験圃場でのイモつるの植え付け（平成29年6月）



市・JA・相生ユニビオ・島民団体・学生が新たな名産品作りを話し合う（平成29年9月）



佐久島産サツマイモの収穫（平成29年11月）



佐久島産サツマイモ芋焼酎の試飲会（平成30年5月）
品種ごとの味の違いなどを確認する

JA西三河の佐久島振興策 ～離島のライフライン・暮らしに欠かせない存在として～

■ JA西三河佐久島店のはたらき

JA西三河佐久島店は、島の生活インフラの担い手として、島民・組合員の生活に貢献しています。

佐久島にある金融機関は郵便局を除けばJA西三河のみ。支店のATMは口座振込などの資金決済などに役立てられています。また新鮮な野菜が届きにくい島民の多くは家庭菜園を営んでおり、JAは野菜苗や肥料の供給を通じて島の暮らしを支えています。

また佐久島店では、Aコープ一色店への食料品の注文を取りまとめ、一括して発注。商品が渡船に乗って届く火曜日・金曜日には、商品の受け取りに多くの利用者が佐久島店を訪れます。



Aコープの商品を受け取りに佐久島店を訪れた利用者

■ 「組合員の集い」、

佐久島の保育園・小中学校へ新米寄贈

毎年9月頃には、佐久島店で「組合員の集い」を開催し、組合長をはじめとする役職員が佐久島を訪れてJA事業の概況を説明。また同日に「組合員感謝祭」として地元産の米や果物、花や鮮魚、日用品などの即売会を開き、佐久島店は非常に多くの組合員でにぎわいます。

また、佐久島小・中学校へ新米を寄贈することも恒例行事。西尾で採れた新米を寄贈しています。平成29年度より佐久島保育園へも寄贈を開始。島の子どもたちのすこやかな成長を応援しています。



米を贈るJAの名倉組合長（後列中央）と、佐久島小の黒柳校長（後列左2人目）、佐久島中の牧野校長（後列左端）、佐久島小5・6年生の児童ら（平成29年9月）

※JAでは今年も10月4日、佐久島店で「組合員の集い」を開催の予定。佐久島小・中学校、佐久島保育園への米の寄贈も合わせて行います。

■ 市と連携して耕作放棄地対策、新たな名産品作りへ

佐久島のJA組合員・利用者からは、農業者の減少から佐久島における田畑が耕作放棄地となっていることを問題視する意見、解決への要望がJAに寄せられていました。

これを受けてJA西三河は平成28年12月、西尾市に向けて行った農業政策に関する要請の中に「佐久島における耕作放棄地の対応」を設けました。また、その働きかけとして平成29年の4月、農業用トラクター1台を西尾市を通して佐久島へ寄贈しました。

このトラクターはこれまでに、島民団体の管理のもと、島の耕作放棄地の耕起と農地作り、景観植物の植栽地づくりなどに活用されています。今後はサツマイモ栽培のための農地拡大にも利用される予定です。

今後もJAは、佐久島のさらなる活性化のため、サツマイモの栽培拡大・販路拡大にむけて西尾市への政策提言などを行い、ともに取り組んでまいります。



トラクターを寄贈するJAの名倉組合長（中央）と西尾市の榊原市長（左）、島を美しくつくる会の鈴木代表（右）（平成29年4月）

※平成29年度より市・島民団体とともに取り組む「さくまいもプロジェクト」については前ページを参照ください